

七月三・四日、私たち仙台第二高等学校の生徒は、東大見学会及び企業・大学訪問を東京に行ってきました。二日という短い間でしたが、とても内容の濃い、充実したものになりました。

まず東京に着いて我々は、ディレクトフォース・日本平和財団の方のはなしを伺いました。

最初に、田中伸男さんの講演を聞きました。田中さんはIEAというところで事務局長をなさっていたことがあり、国際社会で大活躍していた方でした。IEAとは、International Energy Agencyの略称で、石油などの燃料の安全保障を目指す機関です。世界のトップで仕事をさせていただきあって、人に伝わりやすく分かりやすい、人にスピーチをするということはこういうことだと実感できるような、素晴らしい話し方だと思いました。自分も、こんなふうに演説ができるようになりたいと感じました。

また、ディスカッションもとても参考になりました。とくに田部さん、村上さんは印象的な経験談を話してくださいました。

田部さんは、大学のとき両親の転勤でアメリカに引っこした経験をお持ちでした。高校生の時、英語は得意だったけれども、ネイティブには最初ついていけず苦労したとおっしゃっていました。さらに、国際社会で活躍するためにひつようなことは三つだということを教えていただきました。一つは英語力、二つ目は相手国に対し柔軟に対応できる力、そして最後は相手からすかれる、尊敬される人格。三つ目の人格を身に付けることは難しいけれど、そのために今私たちがやっている勉強によって、教養、知識、を得ることで、豊富な考えかたを修得することが大事だと分かりました。また、具体的な英語の勉強法として、テレビ・ラジオの英語番組だけでは不十分で、興味のある新聞記事や本を英語で読むなどのことが必要だとおっしゃっていました。よく、英語は英語で理解できなければならないといわれますが、それは練習すればできるようになるので、今はただひたすら生の英語に触れることが大事だと助言してくださいました。

もうひとり、村上さんは法学系の研究者で、研究者としての心構えを教えてくださいました。研究者が解くもんだいは、ストレートなこたえはありません。それを追求することが、研究者の宿命であり、醍醐味であるだろうとおっしゃっていました。また、それを発表する手段として必要なのは、自分なりの考え方を持っておくことだと分かりました。起承転結など、はなしにフレームをつくることで、しっかりとした論理を相手に伝えられるようになってくださりました。大学にいったら、自分の研究したい学問を見つけ、そこで職業について自分と向き合ってくださいとおっしゃっておられました。

自分の将来について、方向性を見つけるために、とても貴重な体験をすることができたとおもいます。苦労を大きく乗り越えた、人生の先輩だからこそなし得た経験なのだと、とても圧倒されました。

三日の午後からは、国立天文台の三鷹キャンパスに伺いました。将来理学系の研究者か先生になりたいと考えている私にとって、自分の興味のある職業に直接関わる方々に質問することができたのは、ものすごく貴重な経験だったと思います。

着いてからは、まず天文台の研究施設を見学させていただきました。天文関係の最先端の技術を近くで感じることができ、とても興奮しました。また、我々の質問に対しては、なんとスライドショーを用意してくださいました。質問に答えてくれるだけでなく、それに関連する予備知識までおしえてくださり、担当してくださった職員のかたには感謝してもしきれない思いです。

今回の訪問で、自分の関心が大きくひろがりました。自分でも調べて、知識を深めたいと思

いました。理系分野のなかで、いろいろな分野があると知れて世界が広がった気がしました。

企業に訪問したあとは、ホテルに行き、夕食を食べたあと、先輩方と懇談会を行いました。東大などの有名大学にいった二高の先輩方が14人もきてくれました。さすがに東大に行っている先輩だけあって、なんとなくまとっていたオーラが普通ではない気がしました。先輩は、自分の意見やかんがえをしっかりとっており、高校生の私たちに、アドバイスを具体的かつ丁寧におしえてくれました。見えない受験の山にかかった、霧がとれたようなおもいでした。あとは、頂上を目指してかけ上って行きたいと思います。

この懇談会を通じて、自分がやろうと思ったことは、自分で目標作るということです。「目標をたてるまでが半分、あとは目指して半分」。どこかの文章で見たことがありました。先輩の教訓をわすれず、長いようであつというまな期間をしっかりと努力を続けたいです。

翌日、ホテルを出発してからは東大にむかいました。大学について、まずおどろいたのはその広さでした。そして、日本最高峰・最先端の大学の空気に感激しました。また、よくまんがなどにも登場する安田講堂をみました。これを見て、あらためて東大にきたことを実感し圧倒されました。今でも脳裏に光景が焼き付いています。

見学では、工学部と理学部をみにいきました。

工学部では説明会に参加しました。東大の教授や東大生の賢さを生かした機械など、声もでないようなすばらしい技術が紹介されていました。

理学部では数学科を主に見学しました。東北大のオープンキャンパスでも数学科を見学したのですが、また違う雰囲気を感じました。午前中と午後で二度行ったうち、その間ずっと、東大生が同じいすにすわって、数学を語り合っていました。本当に数学がすきだということがわかってきました。また、紹介されていた本には全く訳のわからない数式が列挙されており、唖然としましたが、それと同時にこれからこんなことを学んだり研究したりできるのかと思うととてもわくわくしました。

東大にいったかんじたことは、本当に学問がすきだというひが多いということでした。受け身ではなく、能動的に知識をつかみ探求する精神があるのだとおもいます。学問に興味をもつのはとても大事だと思いました。まさに、学問をするに相応しい場所だと感じることができました。

東大は、とても魅力的でした。東大にいきたいと心からおもいました。ちからが足りるかどうかはわからないけれど、できる限り努力して、絶対やってやるという気持ちで勉強したいです。それは、全力でやりきったことは、これからの人生において、とても自信を持てるものになると思うからです。今回の企画は、とても刺激的で素晴らしいものになりました。この経験をかてに、これからもがんばっていきたいと思いました。